

2. パターンを組み合わせた 景観づくり

景観の「パターン」は、生駒らしさを生み出すための個々の要素、つまり単語です。それらを文章のように組み合わせた「ランゲージ」によって、景観づくりの考え方を表現し、生駒らしい景観づくりを目指します。

そこで、具体的に建物を計画する場合を想定して、“パターン”を組み合わせた景観づくりの方法を紹介します。

2-1. 景観づくりの手順

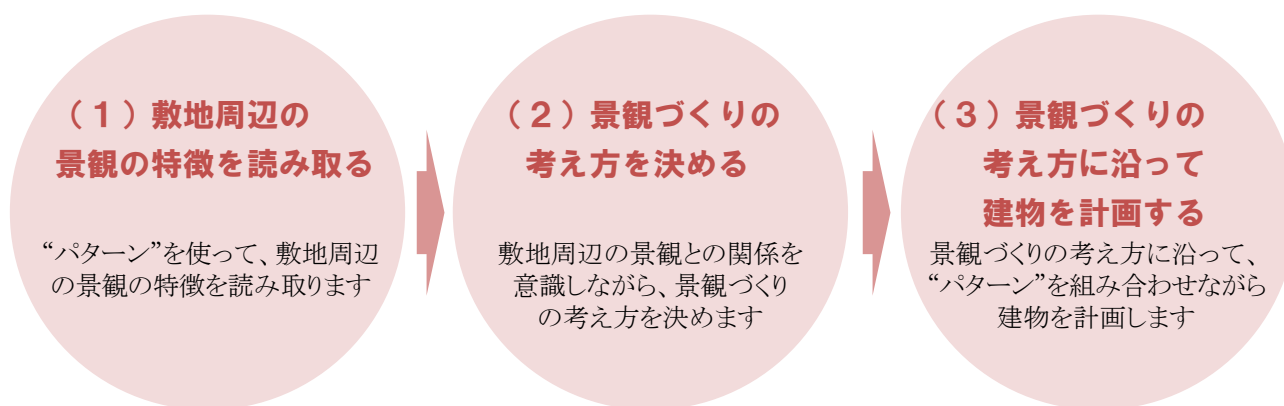
“パターン”を活用し、敷地周りの景観の特徴をいかした計画を考えてみましょう。

まずは、建物を建てたい敷地周辺のまちなみから、“パターン”を見つけます。このパターンが、地域らしい景観を表しています。

次に、見つけた“パターン”との関係を考えながら、建物を計画するときに敷地周りの景観づくりにどのように貢献できるのか、つまり景観づくりの考え方を決めます。

そして、景観づくりの考え方に沿って、様々な“パターン”を組み合わせながら建物を計画します。

次ページから、具体的な進め方を紹介します。



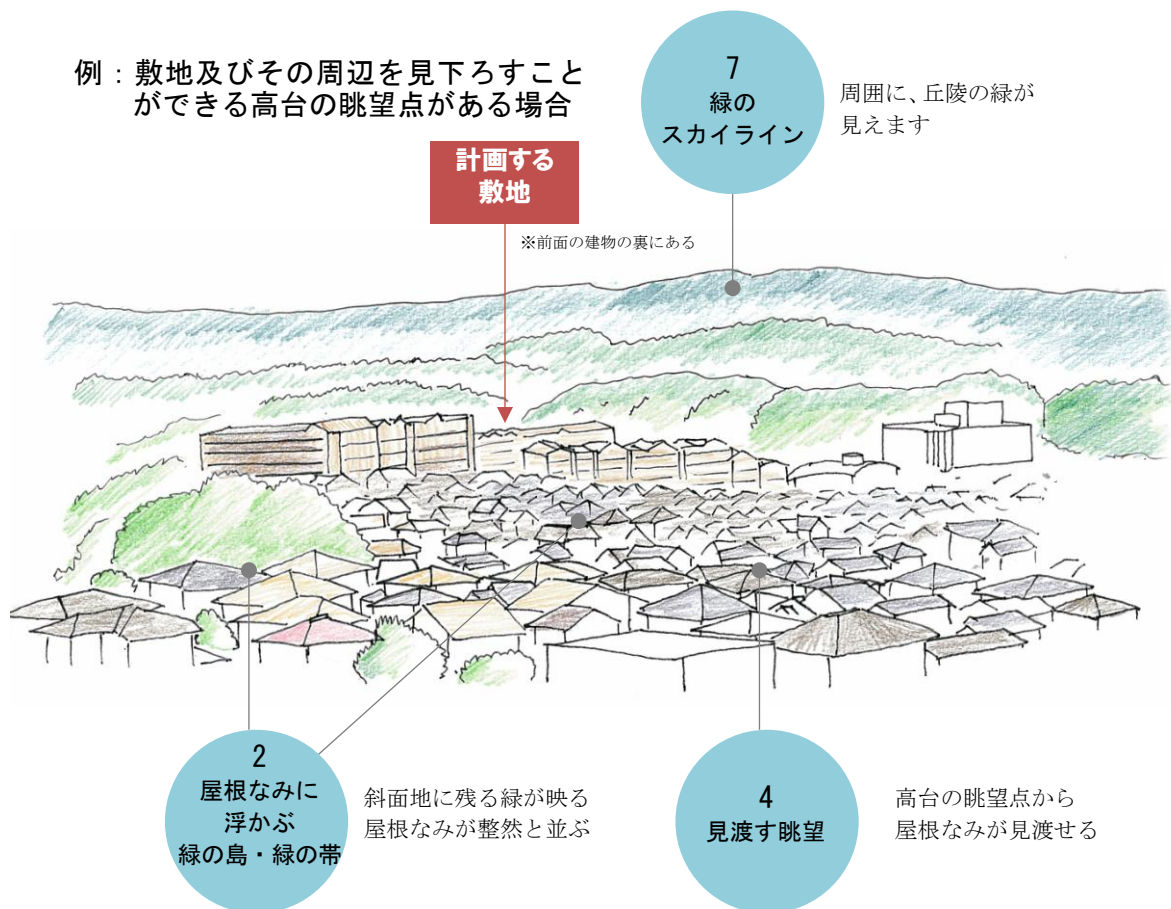
2-2. 景観づくりの具体的な方法

ある敷地で中高層マンションを計画する場合を例に、“パターン”を使った具体的な方法を解説します。

1 “パターン”を使って敷地周辺の景観の特徴を読み取ります

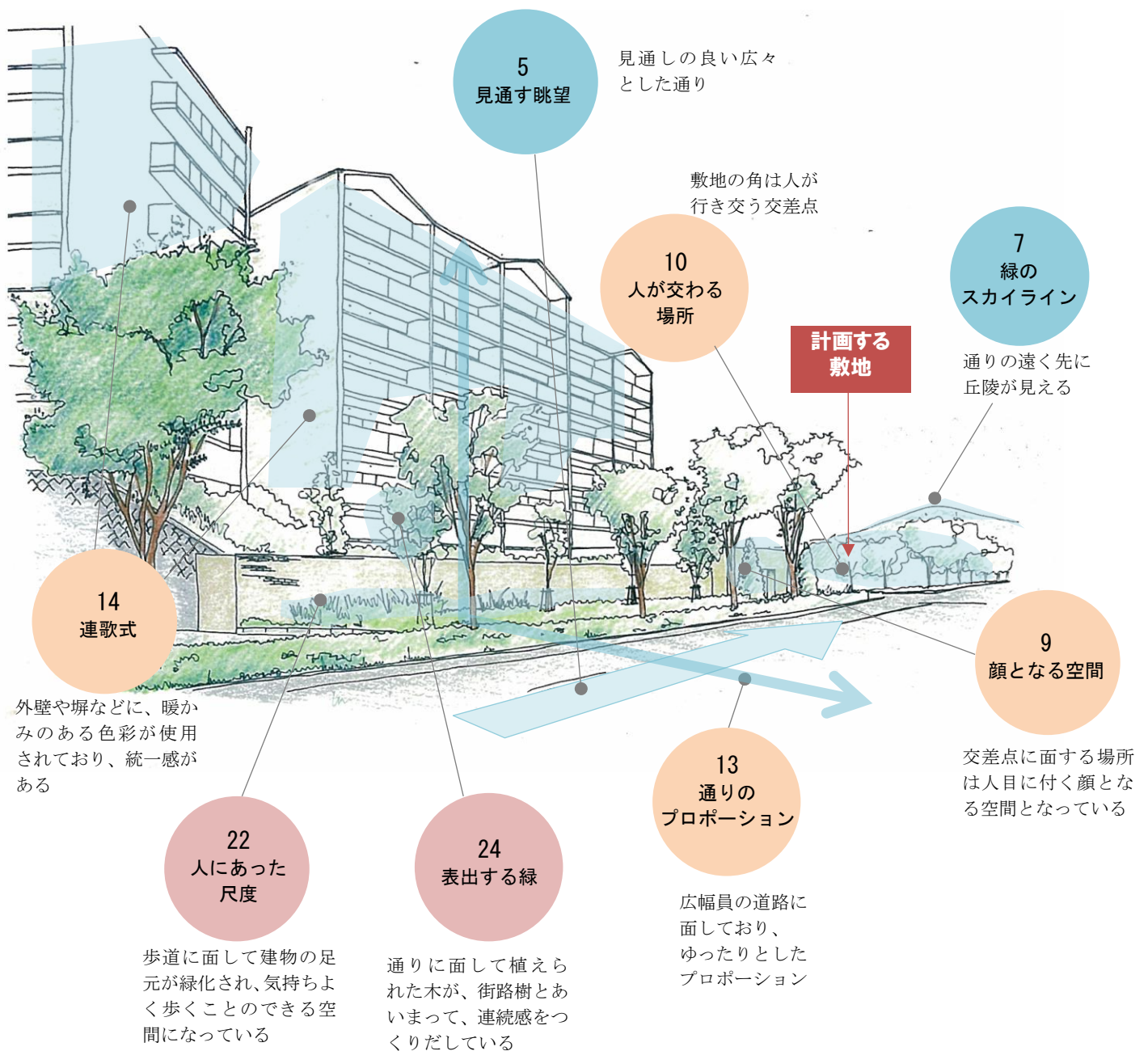
離れた場所からは、どのように見えるでしょうか

計画する敷地が離れた場所からでも見える場合、どのような景観に見えるのかを確認しましょう。



敷地が面する通りは、どのようなまちなみでしょうか

敷地やその周辺、通り沿いを眺めてみて、景観上の特徴をできるだけ多く見つけましょう。



建物の計画の中でどのような景観づくりを目指すかを考えてみましょう。

また、そのときにどのような“パターン”が使えるかを考えましょう。



<景観づくりの考え方の例>

計画例1：丘陵の見えるすっきりとした通りの眺望をつくろう！

通りの先に丘陵の緑のスカイラインが見える眺望を大切にする

計画例2：緑に包まれた、歩いてここちのよいまちなみをつくろう！

街路樹をいかして緑に包まれたここちよく歩ける通りにする

計画例3：人々が集い、楽しく時間を過ごせるまちかどをつくろう！

人々のいきいきとした様子が表れる“辻”の空間をつくる

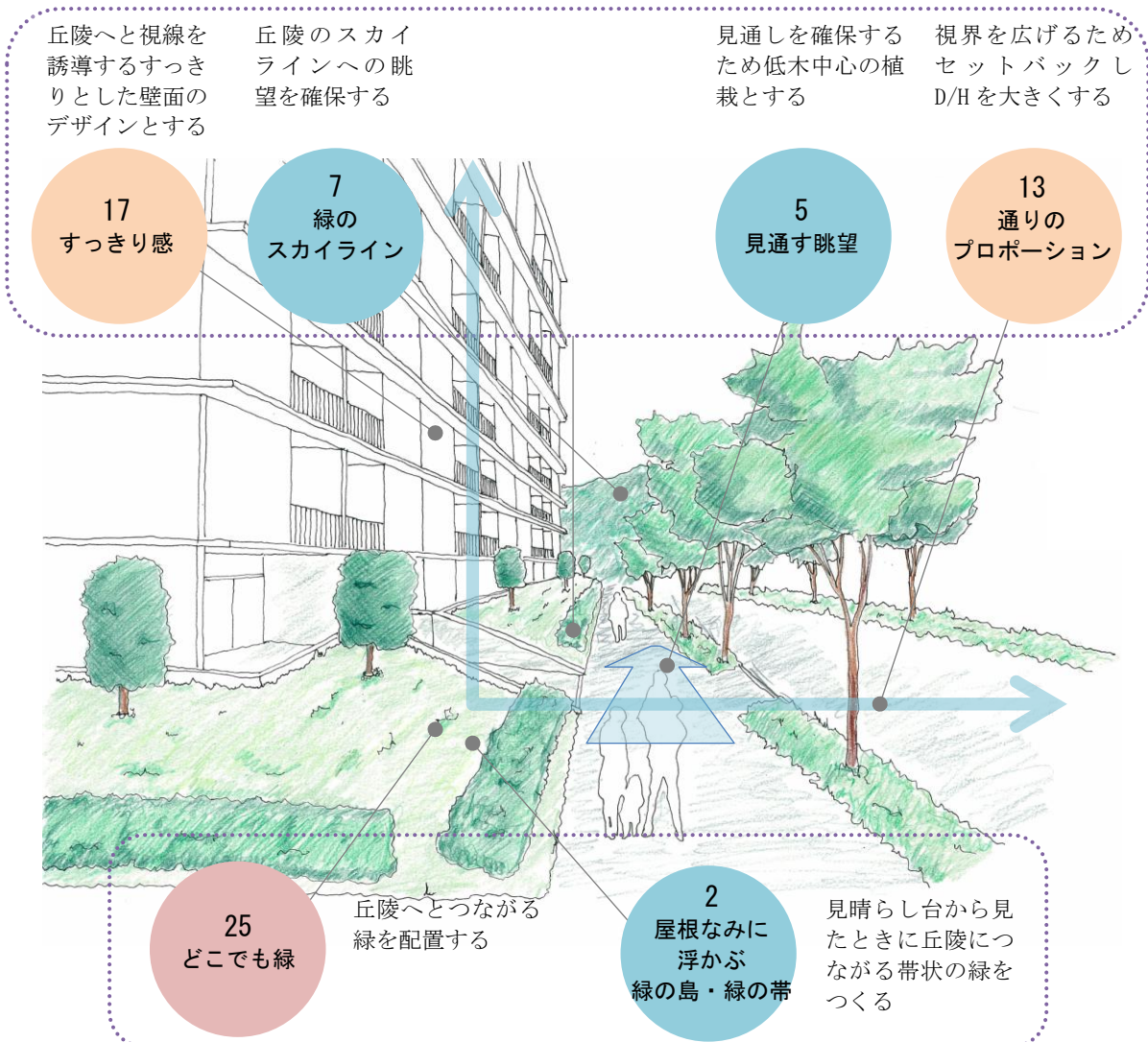
計画例1：丘陵の見えるすっきりとした通りの眺望をつくろう！

- 通りの先に丘陵の緑のスカイラインが見える眺望を大切にすることを考えました。建物をセットバックさせて通りに面した敷地内の空気を広く取って、**ゆったりとした空間構成**とし、建物の立面を**すっきりとしたデザイン**にすることで丘陵へと視線を誘導するように工夫しました。また、通りに面した敷地内の植栽は低木とし、丘陵への**見通す眺望**を確保しました。丘陵への眺望を楽しみながら歩くことができる特徴のある歩行者空間が生まれました。

<7 緑のスカイライン><13 通りのプロポーション><17 すっきり感><5 見通す眺望>

- 通りに沿って幅の広い植栽スペースを確保し、眺望を確保しながらも歩行者が**緑をたくさん感じる**ことができるよう樹種や配置を工夫しました。これにより**緑の帯**が丘陵の緑へとつながるよう意識しました。丘陵へと視線を誘導しつつ、遠くから見渡したときに緑の帯の一部にもなる緑の空間が生まれました。

<25 どこでも緑><6 屋根なみに浮かぶ緑の島・緑の帯>



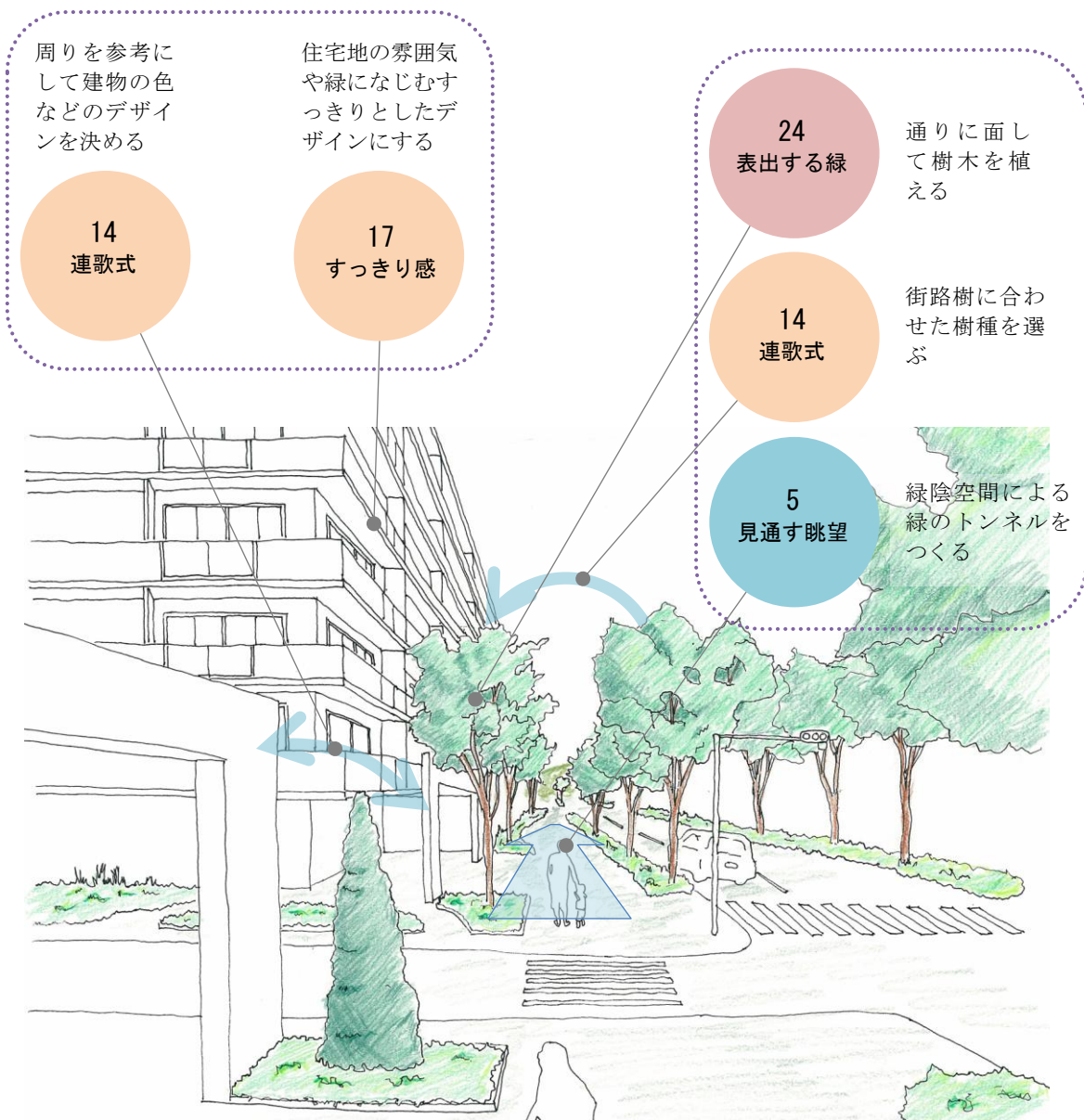
計画例2： 緑に包まれた、歩いてここのよいまちなみをつくろう！

- 敷地が面する道路の豊かな街路樹をいかして、緑に包まれたこちよく歩ける通りにすることを考えました。敷き際にも街路樹と同じ種類の樹木を植えることによって歩道に緑のトンネルのような見通しと緑陰が生まれるようにしました。人々が緑を感じながらこちよく散歩したり、通勤や通学の道すがらを楽しむ景観が生まれました。

<24 表出する緑><14 連歌式><5 見通す眺望>

- 落ち着いた住宅地としての印象や歩道の緑になじむよう、建物の壁面の色やデザインは周りの建物を見ながら決め、すっきりとしたデザインで通りに一体感を持たせました。緑が豊かで落ち着きのある、洗練された雰囲気のオシャレな住宅地の景観が生まれました。

<14 連歌式><17 すっきり感>



計画例3 : 人々が集い、楽しく時間を過ごせるまちかどをつくろう！

- 交差点に面する部分に建物のエントランスを配置し、まちかどを印象付けるシンボルツリーや植栽を工夫しました。また、住民が憩い、立ち話などでもできるベンチのある空地をつくりました。住民だけでなく地域の人々もその空間を楽しむことができます。そのため、住戸のプライバシーを確保しつつもまちかどの様子がうかがえるよう、住棟との間にはほどよい目隠しを工夫しました。幼稚園の送り迎えなどで立ち話をする人、ベンチに座って休憩する人など、人々のいきいきとした様子が表れる“辻”の空間が生まれました。

<9 顔となる空間><10 人が交わる場所><26 しきりとつなぎ>

- 紅葉する木、花を咲かせる木、実がなる木など季節の移ろいを楽しむことができる樹種を混ぜて充実した緑にするとともに、住民が管理にかかわることができる花壇を設けました。住民が自分たちで草花を育て季節が移ろう風景を楽しみ、道行く人たちも、咲き誇る花の様子を楽しんでいる景観が生まれました。

<30 移ろいの風景><25 どこでも緑><21 人の手が加わる余地>

